

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（10月分）

留学先大学：ラトガース大学

氏名：内藤 来

<はじめに>

福井大学国際地域学部の内藤です。留学が開始して2か月が経過しました。今回は主に大学での授業について書こうと思います。

<受講科目について>

現在とっている科目は以下の4つあります。すべて3単位ずつで計12単位取得予定です。

国際関係論入門（火曜、木曜 19時40分～21時00分）

東アジアの世界（月曜、木曜 12時35分～13時55分）

移民と公共政策（水曜 15時55分～18時55分）

農業とフードシステム入門（木曜 17時35分～18時55分）



今まであまり専攻がはっきりしていなかったのですが、こちらでは主に政治学に関する授業を取っています。基本的に80分1コマ週2回が3単位分の授業となるようですが、すべての授業がそれに当てはまるわけではなく、移民の授業のように週1回で3時間（休憩あり）の形態をとったり、農業の授業では80分週1コマで3単位など正直細かいところはよく分かりません。おおよその授業は3単位ですが、中には4単位や2単位の授業などもあります。単位の多さによって授業の多さも変わってくるのが基本です。

<授業の規模、雰囲気について>

入門系のクラスは比較的人数も多く、だいたい30人から50人ほどのクラスになりますが、発展の授業になると10人から20人、もっと少ないところもあるようです。もちろん一概には言えませんが、ラトガースの生徒の多さを考えるとその規模で多くの授業が受けられるのはとても魅力的だと思います。

今受講している授業の中から気づいたことといえば、まず思ったよりディスカッションの機会はありません。基本的にはスクリーンにパワーポイントを映しながら、教授が質問をしてそれに対して生徒が答えながら授業が進んでいきます。ディスカッションの機会ももちろんあるにはありますが、福井大学の英語で開講されている授業と比べるとそれに割かれる時間はだいぶ少ないと思います。ただやはり質問に対して誰の手も上がらないということはほとんどなく、現地の学生の主体性にはいまだに驚くばかりです。

出発前のイメージとしては、もっと授業の雰囲気はラフな感じをイメージしていたのですが、日本とほぼ同じように思います。時間に遅れる教授も生徒もほぼいませんし、特にルールがあるわけではないのですが授業中に飲食する生徒もほとんどいません。また授業の内容をノートの代わりにパソコンで取るのは多くの先生が禁止しています。

<課題について>

普段の課題については基本的にはリーディングです。それに加えてエッセイの提出や、グループワークなども時々入って来たりします（授業によって異なります）。それらについては、シラバスにいつまでにどれを読んでおけばよいのか、いつがエッセイの締め切りなのか、いつグループワークがあるのかなどすべて細かく書いてあります。

またラトガースはインターネットシステムがとても発達していて、エッセイなど課題の提出や評価、教科書以外に指定された文献などはそこからアクセスできるようになっています。シラバスも基本的には紙でもらうことは少なく、そこから見るのが普通です。エッセイやグループワークに対する評価や点数は提出1週間後辺りには自分のページから確認することができます。日本では成績開示の時まで自分がどのくらいの成績なのかあまり正確にわからない一方で、こちらでは自分の成績がどれくらいなのか知りながら授業が受けられるシステムになっています。

課題の量については、入門系の授業から発展形になるにつれて基本的には増えます。今受講している授業の例としては、国際関係論入門では1週間に30~50ページあたり読む必要がありますが、東アジアの世界などでは、一週間にだいたい150~180ページくらいまで課題として出されます。専攻における知識やポキャブラリーが増えれば増えるほど、読むスピードや、理解度も上がってくるので段々慣れてきますが、やはり現地の学生に比べると時間はかかってしまいます。

また課題の量は専攻によってもだいぶ変わってくる可能性があります。政治学はリーディングが多くなる傾向にあるらしく、一方でコミュニケーションやメディア専攻などは少ないとの話も聞きました。もし留学先で観光や遊びの時間が十分に欲しいと考えている人はその辺りも考えておくより良いと思います。

<おわりに>

こちらはまだ11月に入ったばかりですが、10月中旬辺りから冬のような寒さが夜になるとやってきます。キャンパス内には緑が多いため日本のように四季を楽しむこともできました。ただ風が強い気候のためすぐに散ってしまうのが残念でした。引き続き健康に気を付けて生活を送りたいと思います。

